

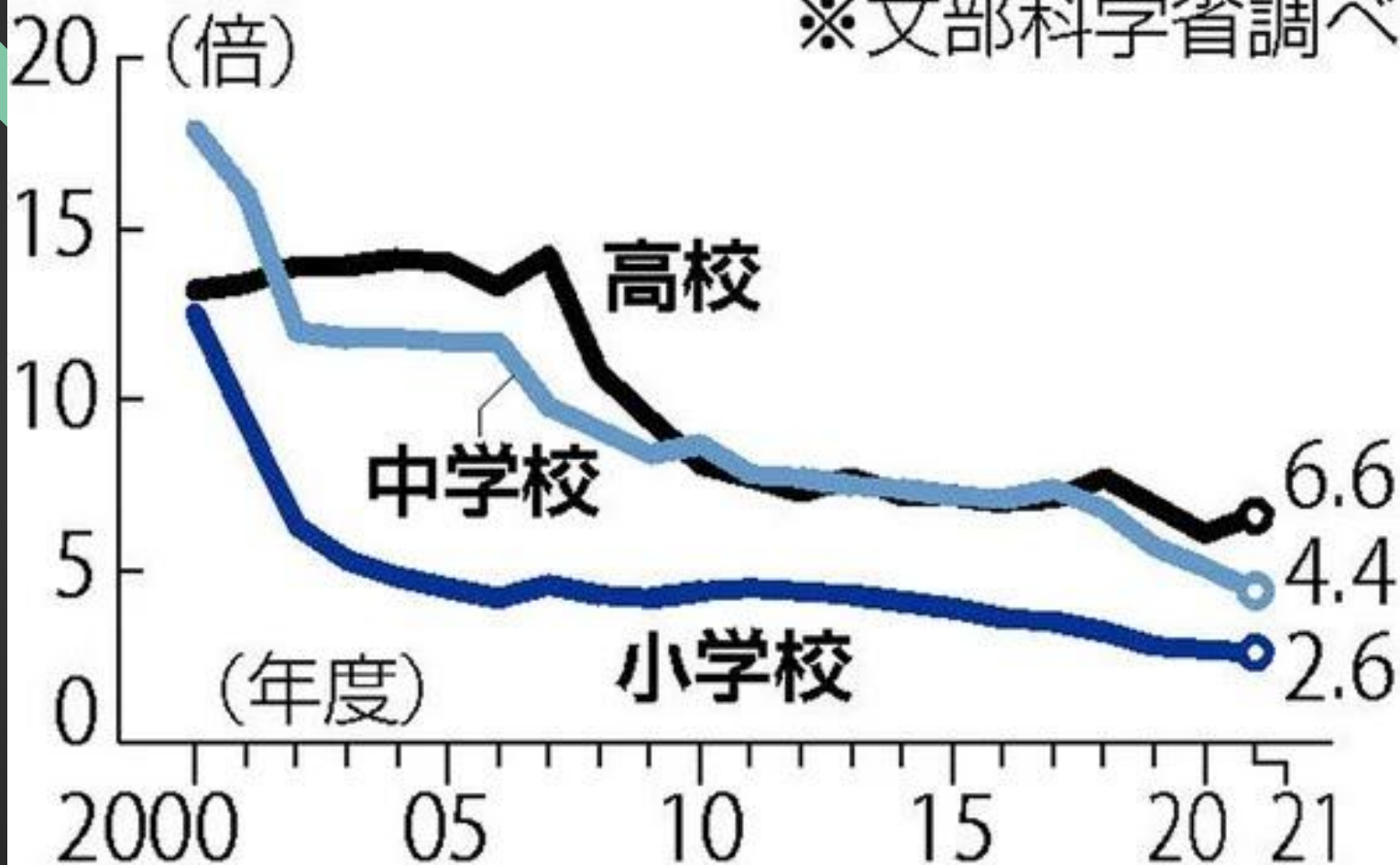


# 教育

上田染谷丘高等学校 1年 翠川 蓮

# 公立校教員の採用倍率の推移

※文部科学省調べ

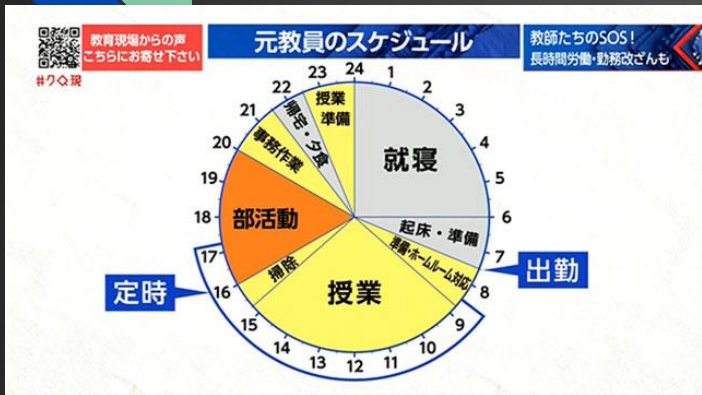




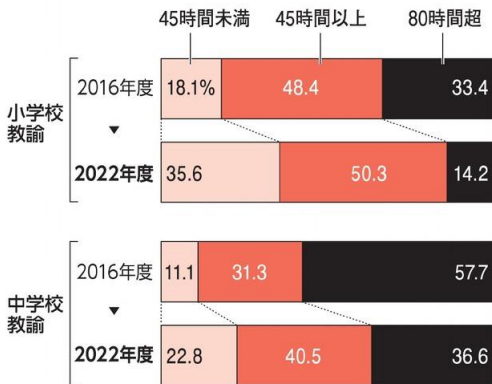
## 教員減少に対する対策

- 教員の正規採用数を増やす
- 学校の働き方改革(部活動指導の地域移行など)
- 人材バンクなどを活用した講師登録数の増加
- 教員採用試験の年齢制限を緩和・撤廃
- 大学と連携してインターン・特別選考を実施

# 様々な対策が**的**を得ていない



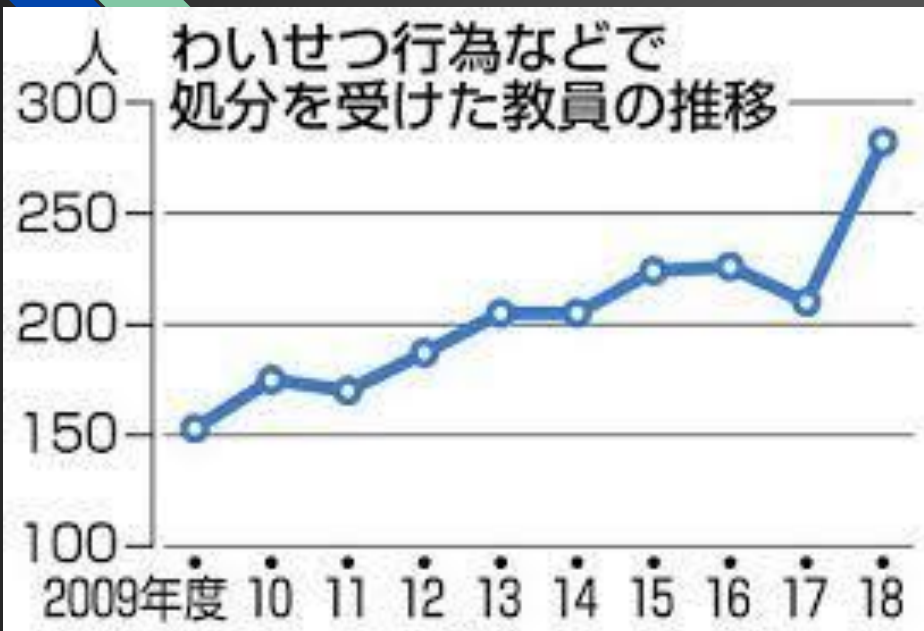
公立学校教員の月の残業時間



文部科学省調べ。四捨五入により合計は100%にならない

過酷な労働時間で自由な時間が少ないにも関わらず過酷な仕事を緩和する対策を講じず、教員の採用数を増やすなどの**的はずれ**な対策を講じてしまっている。

## 的はずれな対策により教育の質が低下

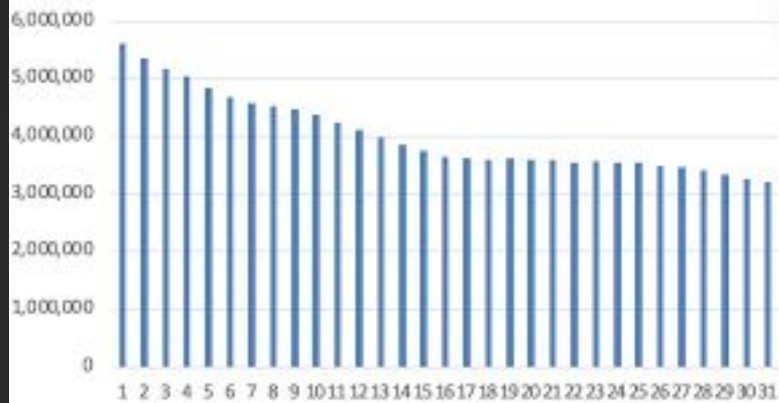


教員採用試験の取得基準の緩和が招いている一つとしてわいせつ行為が挙げられます。

表沙汰になっていないだけで身近に同じような経験をした人もいないのでしょうか。

## 生徒の減少も問題

生徒数の推移(中学校)



学校に行かない選択をできる世の中になってしまった。そもそもなぜ行かないのか

・・・授業がつまらない。先生とのトラブルなど  
様々な要因がある。

## 生徒数が減り、教員数も減る

生徒数が減っているのに質を落としてまで教員数を増やす意味はあるのか？



教育をみんなに届けるため教員を増やすとしても生徒が減っている

## まとめ

恵まれた日本という国に生まれ学ぶことができ教育の質も高い。そんな中教育を受けず、すきなことをする。教員の減少の対策により教育の質が下がる。

日本だけに目を向けるとSDGs4の『質の高い教育をみんなに』を達成する意味があるのかと疑問を持ってしまいが、世界には選択肢などなく教育の受けられない子供がたくさんいる。

そんなことを痛感し、今の日本の環境は素晴らしいと感じたとともに日本の教育への意識の低さや、楽観的な考えにはやるせない気持ちになりました。

4 質の高い教育を  
みんなに

